



未来をひらく琴浦  
農のまちづくり



©えのきづ/マイクロマガジン社

平成 28 年 1 月

琴 浦 町

I. 琴浦町農業の現状.....	1
1. 農業生産に関する状況	
2. 農業者及び農家に関する状況	
3. 農地に関する状況	
II. 琴浦町農業の課題.....	5
1. 生産振興に関する緊急課題	
2. 人と農地に関する緊急課題	
3. 販売力の低下に関する緊急課題	
III. 琴浦町農業の目指すべき姿.....	1 2
IV. プランの概要.....	1 4
V. 具体的な取組.....	1 7
1. 核となる品目の生産振興に関する緊急課題への対応	
(1) ミニトマト	
(2) ブロッコリー	
(3) 芝	
2. 人と農地に関する緊急課題への対応	
3. 販売力の低下に関する緊急課題への対応	
VI. プランの実施体制 .....	2 4
VII. 支援事業の内容 .....	2 6

# I. 琴浦町農業の現状

## 1. 農業生産に関する状況

鳥取県のほぼ中央に位置する琴浦町は、加勢蛇川、洗川、勝田川、黒川の流域に沿って水田地帯がひらけ、中央の丘陵地の樹園地では梨、また畑地帯では芝生、牧草、施設園芸などの生産が行われています。山間部でも標高400mの地域まで耕作が営まれており、これらの耕作地において、複合経営をはじめとした多様な生産が行われています。

琴浦町の農業産出額は96億3千万円（2006年生産農業所得統計）で、県内では大合併により広域化した鳥取市に次いで第2位となっています。

この中で約6割を占めるのが県内第1位の畜産ですが、米や飼料作物、芝、果樹、野菜など、多岐にわたる作物が生産、出荷され、販売額が1億円を超えるものも多数あり、従来から「農業どころ」として県内外に認知されています。

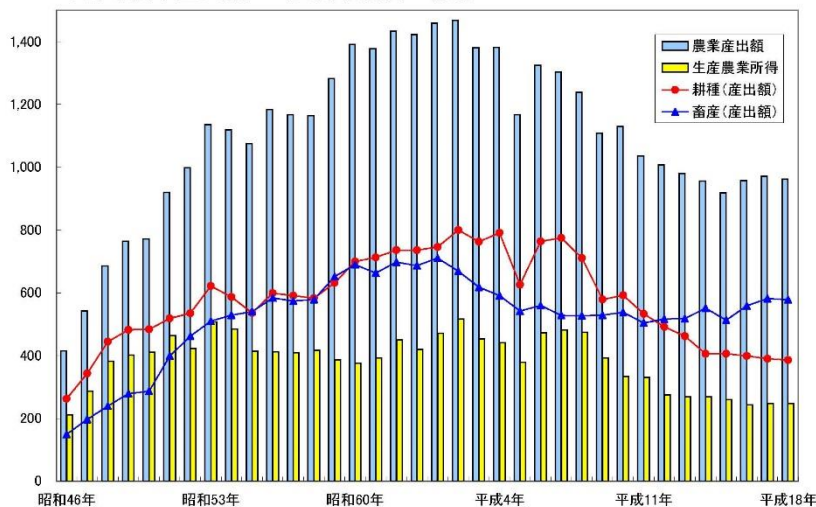
農業産出額の推移では、畜産が増加傾向にある一方で、耕種部門は少しずつ下落しています。耕種部門の内訳で顕著なのが、梨をはじめとする果実の減少で、2006年では約11億円と、1990年代ピーク時の約3分の1となっています。

芝生産については、全国第2位の販売高を誇る鳥取県内にあって、その約4割の生産を担う産地として平成初期の景気悪化からの低迷を乗り越えて、生産量、出

2006年  
県内市町村別農業産出額  
(千万円)

市町村名	農業産出額
鳥取市	1,075
琴浦町	963
大山町	920
北栄町	786
米子市	667
倉吉市	635
湯梨浜町	299
八頭町	291
日南町	276
南部町	213
伯耆町	206
境港市	106
岩美町	102
三朝町	81
江府町	75
智頭町	53
若桜町	42
日野町	40
日吉津村	18

琴浦町農業産出額と生産農業所得の推移



荷額共に増加の傾向にあります。

耕種部門全体が縮小傾向にある中、野菜については年間約 11 億円程度と長期間にわたって維持傾向を続けています。

主要品目の作付面積及び販売額の状況 (単位：ha、千円)

品目	平成 23 年		平成 24 年		平成 25 年		平成 26 年	
	作付面積	販売額	作付面積	販売額	作付面積	販売額	作付面積	販売額
ミニトマト	9.2	246,353	9.4	275,565	9.4	229,638	8.7	241,118
梨	130.2	1,036,309	126.3	1,042,028	120.0	1,015,985	106.6	996,772
ブロッコリー	90	212,903	86.4	283,901	85	277,889	110	341,054
白ネギ	26.5	210,261	26.1	221,487	20.8	247,058	21.2	198,035

(JA 鳥取中央提供資料より琴浦町作成)

## 2. 農業者及び農家に関する状況

～販売農家数、主業農家数の大幅な減少と高齢化の進行～

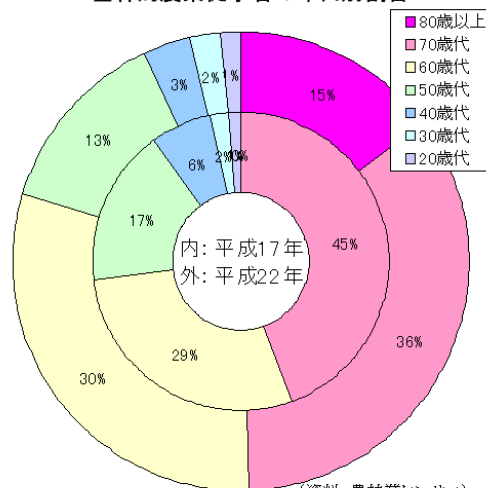
農業就業者人口は平成 12 年からの 10 年間で 8 2 6 人の大幅な減少となっており、減少率は約 26.5% で、町全体の人口減少率 (約 9.3%) と比べても非常に高くなっています。

農業就業者数と平均年齢の推移

	農業就業人口	平成 12 年との対比	平均年齢	町全体		
				人口	平成 12 年との対比	世帯数
平成 12 年	3,112 人	-	62.2 歳	20,442 人	-	6,030 世帯
平成 17 年	2,761 人	▲11.28%	63.9 歳	19,499 人	▲4.61%	5,964 世帯
平成 22 年	2,286 人	▲26.55%	67.4 歳	18,531 人	▲9.35%	5,823 世帯

(農林業センサス、国勢調査)

基幹的農業従事者の年代別割合



農業就業者の平均年齢も高くなっていて、平成 22 年の調査では 70 歳以上が約 5 割を占めています。

また、販売農家戸数も10年間で426戸の大幅な減少となっています。高齢専業農家数の増加により、専業農家数自体は増加していますが、主業農家数の大幅な減少が問題となっています。

### 販売農家数の推移

(単位：世帯)

	販売農家戸数	内 訳		
		専業	第1種兼業	第2種兼業
平成12年	1,735	280	387	1,068
平成17年	1,500	302	300	898
平成22年	1,309	345	242	722

(農林業センサス)

### 主副業別農家数の推移

(単位：世帯)

	計	主業農家	準主業農家	副業的農家
平成12年	1,735	445	471	819
平成17年	1,500	379	355	766
平成22年	1,309	315	292	702

(農林業センサス)

町農業の担い手である認定農業者の人数は7年間で2人増加しておりますが、平均年齢は6.3歳高くなっています。このことから、現行の認定農業者が引き続き認定を受けることで全体の人数の減少を少人数にとどめている一方で、若い世代の農業者が新たに認定を受けることが少ないことが伺えます。

### 農業担い手の状況 (琴浦町認定農業者)

	人数	平均年齢
平成19年	172人	52.5歳
平成26年	174人	58.8歳
比較増減	2人	6.3歳

また、農家の後継者不足は極めて深刻で、多くの後継者が他産業に従事し、休日等にも農作業を行わないなど、農業離れが進んでいます。

Iターン、Uターン者を含め、新規就農者として認定を受ける農業者は近年、年間1人から2人と伸び悩んでいる状況です。

### 認定就農者の状況

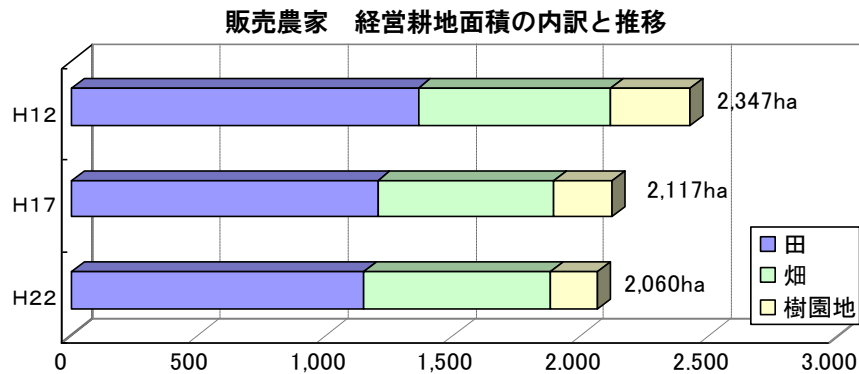
	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
新規就農者数	2人	1人	1人	1人	2人

### 3. 農地に関する状況

琴浦町の経営耕地面積は2,148haで、平成12年からの10年間で276ha減り、中でも販売農家の経営面積が大きく減少しています。

経営耕地面積の推移 (単位：ha)

	販売農家	自給的農家	総面積
平成12年	2,347	77	2,424
平成17年	2,117	82	2,199
平成22年	2,060	89	2,148



後継者不足や高齢化による離農などにより農業者の減が進む中、農業委員会では農地の流動化を推進しています。平成23年末には利用権設定により1,280戸が約51haの農地を利用していますが、一方で、遊休農地も増加の傾向にあり、これらの荒廃化防止のための取り組みが急務となっています。

また、農地の保全及び規模拡大の面からも、水稻、飼料作物、芝などを中心としながら面的集積を図ることが必要です。

琴浦町内遊休農地の状況

年	遊休農地面積
平成22年	13.1ha
平成23年	52.2ha
平成24年	54.1ha
平成25年	37.2ha
平成26年	38.3ha

(琴浦町農業委員会資料)

## Ⅱ. 琴浦町農業の課題

琴浦町農業においては、農業就業者人口の減少や農業後継者不足、そして遊休農地の増加など全体的な課題を抱えている中で、生産振興に関する緊急課題、人と農地に関する緊急課題、販売力の低下に関する緊急課題の3つの緊急課題が挙げられます。

### 1. 生産振興に関する緊急課題

品目ごとに多くの課題がある中で、農業所得向上のために、高品質化や市場ニーズに合った品種の導入、出荷体制の整備などを積極的に取り組んでいます。

その中でも特に、産地としての確立を堅固にするため、なお規模拡大の意向が強いミニトマト、ブロッコリー、芝の3品目に関しては、産地の存亡にかかわる緊急的に解決しなければならない、つぎのような課題があります。

#### (1) ミニトマト

**現状：県内の8割を超える出荷量だが市場要望に対応できていない**

琴浦町でのミニトマト生産は昭和58年にエリザベスメロンの裏作として導入され、平成5年に県内でいち早く選果機を導入し共同選果体制を取ったことで、生産規模を順次拡大し、今では「**琴浦ミニトマト**」として広く認知されています。

現在では、施設園芸の主要産品のひとつとして、約9haの農地で69名の生産者が5月から12月までの長期出荷体制をとりながら生産しており、平成23年度の販売額は約2億4千万円となっています。

この品目は、ハウス栽培によることで天候に左右されにくいこと、作物が軽量で小型であるため体力がない農業者にも作りやすいこと、また春作と秋作を行うことができるため、他作物との組み合わせで年間を通じた営農が可能なことなどの特長があります。

こうした特長から、安定的な収入の確保や継続した農業経営のためには、年齢層が高くなりつつある本町の農業にとって欠くことができない作物となっています。

**近年は生産者、作付面積ともに横ばい状況ですが、意欲ある生産者からは規模拡大の意向や新規就農者の積極的な受入れ、農業後継者の育成についての意志が示されています。**

「**琴浦ミニトマト**」は、県内はもとより関西地方から山陽地方にかけ

て、一定の支持を受けていますが、近年はその出荷品の大きさのばらつきに対する改善の要望を受けているところです。また、共同選果体制が整ったことで生産規模を伸ばしたミニトマトですが、現在はこの選果体制に大きな課題を抱えています。

また、最近では特に夏場の猛暑により、慢性的な水不足や品質低下が生産者の声として挙がっております。

以上より選果体制に加え、品質向上、生産量増加への取り組みが新たな課題となっております。

### **緊急課題：市場の要望に対応できない選果体制、生産体制の危機的状況**

現在使用している選果機の経年劣化は危機的な状況で、すでに市場への影響も出ています。

劣化により修繕が度重なり、選果作業が午後8時までかかるなど、作業人員の確保に支障を生じつつあるほか、出荷制限をせざるを得ない事態が頻発しております。

また近年は、市場から、その出荷品の大きさのばらつきに対する改善の要望を強く受けているところです。

計画通りの出荷ができないこととあわせ、年々増加する修繕費も今では年間400万円を超えており、こうした緊急課題に対応するため、一刻も早い新たな選果機の導入が必要です。

さらに近年の異常気象、特に夏場の猛暑による影響による品質低下も懸念されています。

夏場の水不足時はもちろん、水稻栽培の時期と重なると、十分な灌漑設備が整っていない産地の多くで慢性的な水不足となっております。また、町内でもミニトマト栽培が盛んな安田地区では、水路の水を農業用水として使用している生産者が多いことから、その他作物で使用した残留農薬等による影響が懸念されております。そのため、これら課題について早急に対応していく必要があります。

加えて、収穫期の労働力不足が慢性的な問題となっておりますが、現在はこれを補う体制がないため、長時間労働を余儀なくされており、あわせて担い手不足も深刻となっております。

また、ハウス建設費の高騰による負担増や、増反時には現在に増して労働力の不足が予測されるなどの理由で、生産者の意向に反して規模拡大が進んでいない状況があります。



## (2) ブロッコリー

現状：生産規模を順調に拡大中

琴浦町のブロッコリー生産部では、品種試験や栽培技術の検討などを重ね、近年では収穫時期の幅を広げた長期出荷体制を確立させています。これに伴い、生

産

者及び生産面積も増え、2億1千万円の

販売高を誇る町の主要生産物となっています。

また平成 23 年度にはこの長期出荷体制をさらに安定させるために、氷詰出荷のための施設整備も行い、積極的に品質の安定を図っています。

こうした取り組みにより、高年齢層の生産者や大規模な面積で栽培を行う生産者があり、生産量も順調に増えていきます。

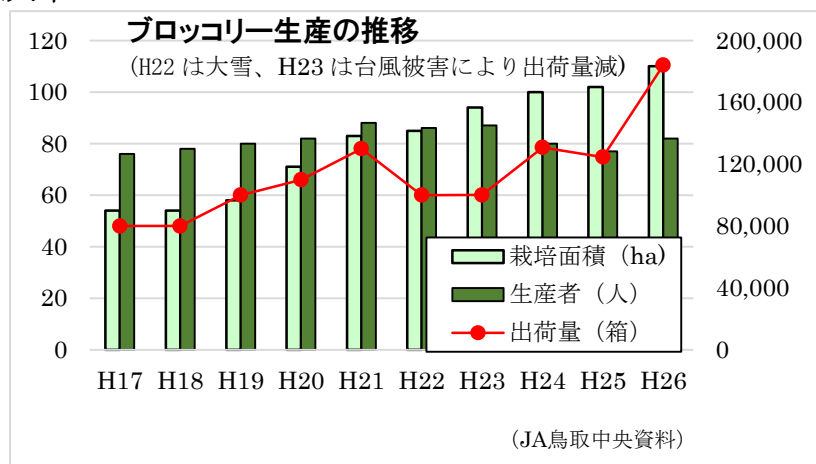
しかしながら、面積拡大に伴って、生産、出荷に係る作業負担は依然として大きな課題であります。加えて、連作障害の発生も多く見受けられるようになり、また、水田を転換し栽培している農地では、畑地の農地と比較すると品質格差が著しく、圃場の有効活用も大きな課題となっております。

### 緊急課題：長時間過重労働による生産者の疲弊、連作障害や圃場状況による品質低下

ブロッコリー生産において最も深刻な問題となっているのが作業量の多さです。定植、管理、防除、収穫という一連の作業が競合する期間があり、特に秋冬ブロッコリー栽培では8月から翌年1月にかけての作業が重複し、大規模農家にとって適期作業の実施が困難になっています。

規模拡大すればするほど作業の遅れや管理不足による下級品への等級落ちなどが生じ、それを防ぐために、収穫時期には深夜3時ごろからの作業などで対応をしていますが、若い担い手でも、この長時間過重労働による健康上の問題などから、営農継続に不安の声が上がっています。

また、面積拡大、出荷量の急激な増加により生産者からは連作障害による品質低下等の影響も懸念されています。生産者の多くは初夏、秋冬



ブロッコリーと連作して作付けを行っており、出荷量の増加と相まって連作障害が多く圃場で見られるようになり、新たな課題となっております。

さらに、品質状況は圃場による影響を大きく受けております。排水の良い畑地での栽培を行う生産者と水田を転換し作付けを行っている生産者では、非常に大きな品質格差が生まれており、適正圃場での栽培体制づくりが急務です。

面積拡大が着実に進む今、こうした理由によるブロッコリー生産者の減少や品質低下を食い止めるためにも、作業効率化と労力軽減及び品質向上のための対策が急がれます。

<b>■初夏ブロッコリー栽培作業時期</b>	
定植（定植機使用）	3月～4月
管理（中耕、土寄せ）	3月中旬～5月下旬
防除	3月中旬～6月上旬
収穫	4月下旬～6月下旬
<b>■秋冬ブロッコリー栽培作業時期</b>	
定植（定植機使用）	8～9月
管理（中耕、土寄せ）	8月中旬～翌年1月
防除	8月中旬～翌年2月上旬
収穫	10月～翌年2月

### (3) 芝

現状：鳥取県芝発祥地として県内の約4割を生産出荷

平成23年 芝主要産地の生産状況

県名	出荷額		出荷数量	
	(千円)	対前年比	(a)	対前年比
茨城	2,800,000	97%	250,000	96%
鳥取	1,381,220	99%	47,697	106%
宮崎	719,249	93%	24,393	95%
熊本	437,175	103%	25,057	104%
鹿児島	383,218	93%	23,327	93%
全国計	6,097,213	91%	400,487	96%

芝の生産面積で茨城県に  
次いで全国第 2 位を誇る鳥

(資料:平成 23年花木等生産状況調査)

取県において、その約 4 割を占める琴浦町は日本芝の全国的な産地として県内外から認められています。

高品質な鳥取県産芝は、ゴルフ場や庭園等での需要が継続的にある中、鳥取県が開発した新品種「グリーンバード」(従来の日本芝に比べると丈夫で維持管理が容易)」による公共工事等での需要も見込まれ、作付面積の拡大も予定されています。

琴浦町内では土地利用型の農業として丘陵地帯を中心に広く作付けされており、作付面積も近年微増傾向にあります。

芝生産の主な作業は施肥と除草、刈込み、集草、出荷で、他産業に従事する傍らで栽培を行う生産者も多く、リタイア後であっても生産を継続しやすい品目のひとつに挙げられます。

町内農地を面積ベースで見ると、大半を占めているのが水稲、飼料作物と芝で、琴浦町全体の農地の維持保全の面でも芝生産は大きな役割を果たしています。

しかしながら一方では、離農者が相次ぎ、優良な鳥取県産芝の産地としてその生産量の維持が大きな課題となっています。

鳥取県内芝作付面積の推移

(単位：a)

生産町名	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
琴浦町	29,981	29,782	30,576	30,807
北栄町	10,138	9,433	10,066	10,173
大山町	34,501	34,321	36,218	36,503
倉吉市	1,354	1,018	1,104	1,104
米子市	130	130	130	130
合計	76,104	74,684	78,094	78,717

### 緊急課題：離農増による生産量減と西洋芝混入の脅威

芝生産においては、離農者数の増により、生産量の確保が喫緊の課題となっています。

高齢化と後継者不在により、機械更新のタイミングで離農する農家が多数予測されているうえ、芝カス処理に対する地域住民からのクレームも離農に拍車をかけています。

販売組織はあるものの、栽培管理に係る組織化が確立されていない

め、離農分の面積を吸収するにも、担い手は個々の栽培面積維持で手一杯の状況であり、今のままでは生産量の減が必至です。

一方で、良質な日本芝の産地としては、西洋芝の混入が大きな脅威となっています。

近年、鳥取県内では鳥取方式による芝生化推奨が積極的に行われ、全国的にも広がりを見せるなど注目を集めているところです。

しかし、この鳥取方式による芝生化は、成長が早く踏みつけなどに強い丈夫な品種であるティフトン（西洋芝）のポット苗を使用したものですが、日本芝とは特徴と性質が異なり、これが混入した場合、高品質な日本芝としての商品価値が下落し、産地に深刻なダメージを及ぼします。

鳥取県芝発祥地として、改めて日本芝の良さをアピールするとともに、混入を防いで産地を守るため、地域ぐるみでの取り組みが急務となっています。

琴浦町内芝生産者数の推移

(単位：人)

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
生産者数	317	308	295	294

## 2. 人と農地に関する緊急課題

鳥取県の中核的農業地域である琴浦町でも、担い手の高齢化や後継者不足、遊休農地の拡大などの問題は差し迫っています。

これら人と農地に関する問題は、農業所得の伸び悩みに起因し、担い手農家の後継者までもがサラリーマン化するなど、農業離れが進んでいることが大きな要因のひとつです。

農業所得が上がらないことから、新たな農業への参入者が少なく、農業従事者は全体的に高齢化、減少を続け、遊休農地が増え、荒廃化が進むという負の連鎖が起きています。

また、この負の連鎖により、新規就農者や農業後継者の確保が困難な状況が続いていて、琴浦町農業が培ってきた技術と優良な農地の継承が危ぶまれています。

近年は、全国的に未婚率の高さが取りざたされていますが、琴浦町では農業従事者の結婚事情はより深刻で、45歳未満の基幹的農業従事者102人のうち、未婚者は約半数にのぼります。担い手農家からは、「このままでは家族での農業経営を継続しながら農地を維持していくことができなくなる」という心配の声も多々寄せられています。今すぐにでも手を打たなければ、将来の琴浦町の農業の衰退に直結する恐れもあり、

すでに一個人の問題ではなく、琴浦町の農業全体にとって非常に重要な問題となっています。

### 3. 販売力の低下に関する緊急課題

平成16年9月の町村合併以後、『琴浦町』として観光や商品開発、B級グルメなど多分野でのPRに努めています。

平成21年からは、大阪府の守口門真商工会議所との連携を進め、例年各種イベントや商店街のチャレンジショップでの出展などで鳥取県琴浦町の認知度アップを目指した取り組みを行っています。平成23年度には、同地域の商店街でチャレンジショップを4ヶ月間開店し、周辺の住民には「鳥取県琴浦町」の認知度が少しずつ高まっています。

また農業分野では、町合併以後、生産組織の統合も順次行われ、平成24年には梨生産部が統合されました。「東伯の梨」「赤碕の梨」から、今シーズンは『琴浦の梨』として販売促進資材も一新し、生産者も市場での店頭PR販売等を実施し進物用梨の売出しを行いました。

ところが、こうした取り組みにもかかわらず、進物用の梨の販売は前年と比べて大きく落ち込む結果となりました。店頭での購入者とのやり取りや販売先での聞き取りの結果、『琴浦』の認知度が低いことが大きな要因であることが分かりました。

進物用は、安心して購入できる認知度、ブランド力が不可欠であることから、馴染みのない『琴浦の梨』が選ばれなかった結果に危機感を募らせています。

梨のみならず、他の作物の生産者や他産業の関係者からも、『琴浦』の認知度を高めることと、『琴浦産』の品質の良さを広めることの重要性が訴えられています。

二十世紀梨の販売状況

(単位：10kg 箱)

	平成23年			平成24年
	赤碕	東伯	全体	
市場販売	44,676	107,114	151,790	152,963
進物・直売	19,617	29,897	49,514	34,385
貿易	1,693	1,568	3,261	15,392
合計	65,986	138,579	204,565	202,740
進物・直売比率	29.7%	21.6%	24.2%	17.0%

### Ⅲ. 琴浦町農業の目指すべき姿

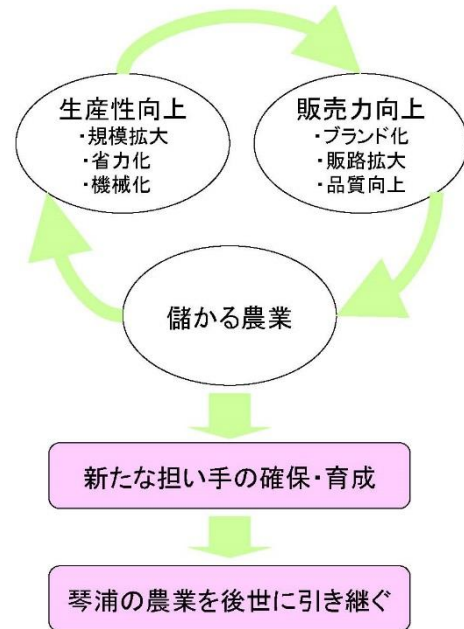
～生産規模拡大と連携で儲かる農業～

ミニトマト、ブロッコリー、芝の3品目を突破口として、梨や畜産、白ねぎ、西瓜など多様で複合的な県内随一の産地を目指します。

産地存亡にかかわる取り組みとして、重要品目の生産規模の拡大や作業効率の向上により、生産量を増やし、産地の維持拡大を目指します。

また、他産業との連携や、県外消費地との連携などにより、消費拡大の取り組みを集中的に行うことで、琴浦産品の新たなファンを獲得し、販売力を高めます。

生産性と販売力を向上させることで、儲かる農業のサイクルを形成し、5年後、10年後の展望をひらくことができる未来ある農業を目指します。



～琴浦町農業を後世に引き継ぐ～

儲かる農業のサイクルを定着させることで、新たに琴浦町の農業を担っていく人たちを確保し、農業経営を継続します。また農地をはじめとする農業資源をよりよい形で後世に引き継いでいきます。

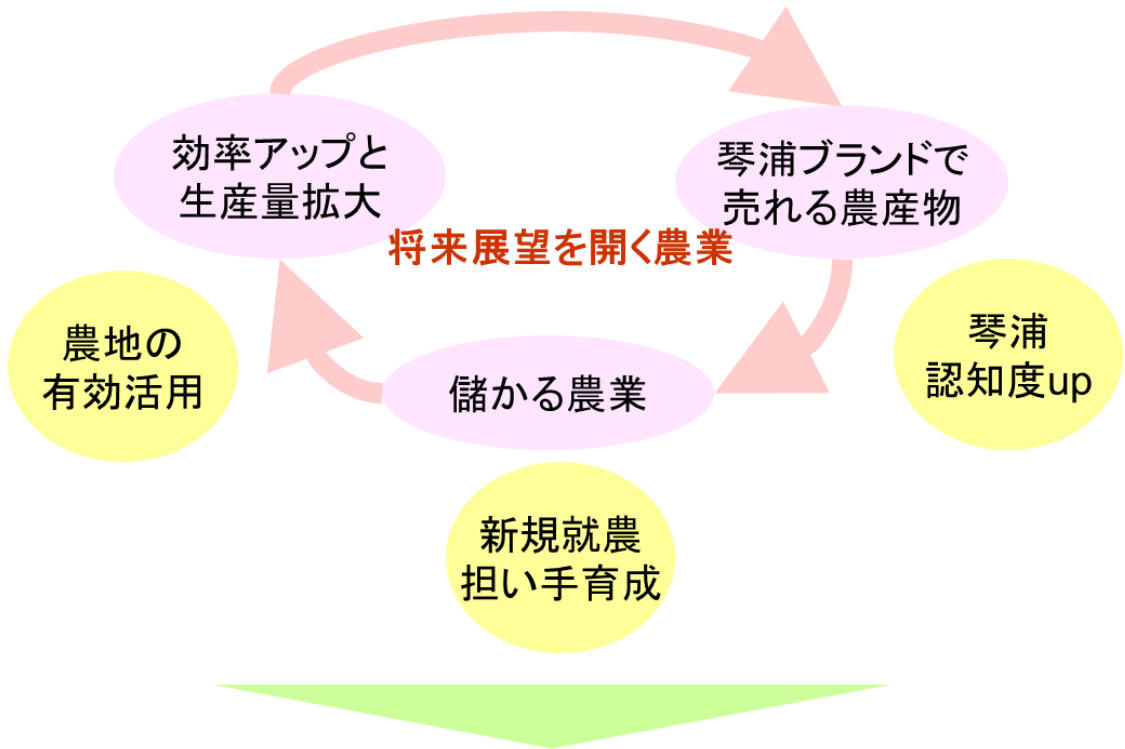
また、6次産業化や企業の新規参入などを進め、さらに次のステップへとつなげます。

## 目標数値

		現状	H25年	H26年	H27年	H28年	H29年
(1) 重点 作物の栽培 面積の 維持・拡大	ミニトマ ト生産面 積の拡大	920a	900a	1,000a	1,050a	1,100a	1,150a
	会員(*)の ブロッコ リー栽培 面積の拡 大	6,806a	8,097a	8,926a	(10,353a) 11,114a	(10,661a) 11,936a	(11,787a) 12,532a
	会員(*)の 芝栽培面 積の拡大	3,544a	3,755a	4,161a	4,461a	4,709a	4,839a
(2) 耕作 放棄地の 拡大防止	荒廃農地 の再生延 べ面積	1,131a	1,430a	1,730a	2,030a	2,330a	2,630a
(3) 担い 手、新規就 農者等の 確保	認定農業 者、新規就 農者及び 農業後継 者の確保	5人	5人	5人	5人	(5人) 8 人	(5人) 8 人
	農作業受 託登録者 の確保	0人	12人	14人	16人	18人	20人
(5) 琴浦 ファンの 獲得	二十世紀 梨進物用 販売割合 の回復	17%	19%	21%	22%	23%	24%
	がぶりこ のブラン ド化及び 進物販売 の拡大	8%	(11%)	11.5%	12%	12.5%	13%

\*会員：本プランで生産規模拡大、産地維持に取り組むため設立された「琴浦町ブロッコリー一等生産拡大を考える会」及び「琴浦町芝協議会」の会員

緊急課題の解決		
生産振興	人と農地	販売力
<b>ミニトマト</b> 共選体制整備 労働力補完 生産体制整備 <b>ブロッコリー</b> 作業負担軽減 耕畜連携 <b>芝</b> 生産量確保	遊休農地対策 荒廃農地再生 担い手育成	他産業と連携し 集中的に琴浦農業の 魅力をPR



琴浦町の農業を後世につなぐ



～ミニトマト、ブロッコリー、芝の危機回避～

主要品目の現状と課題を整理する中で浮かび上がった、緊急的な支援を必要とする3品目を重点作物として位置づけ、集中的に対策を講じることで、主要産地の危機を乗り越えます。

担い手の生産規模拡大により必然的に起きる労働力不足に対して、支援体制を構築します。

	作物別の緊急的な課題	解決策
ミニトマト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外観均一化、品質安定等の市場要望への対応選果機機能による一日の出荷量制限、選果が長時間にわたり人員確保が困難</li> <li>・近年の猛暑による品質低下</li> <li>・安全で安定的な農業用水の確保</li> <li>・収穫期の労働力不足、担い手不足</li> <li>・ハウス建設費の負担</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・形状選別、パック詰め機能を有する新たな選果機の導入で、品質安定と省力化を図る。</li> <li>・循環扇を導入し、ハウス内の温度を適温とすることで、品質管理及び生産量の拡大を図る。あわせて、作業者の熱中症防止を図る。</li> <li>・井戸を設置し、安定的で安全な水の確保により品質管理を図る。</li> <li>・農作業支援体制整備、担い手確保のための施設整備</li> <li>・ハウスリース事業による初期投資の負担軽減</li> </ul>
ブロッコリー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業の重複による長時間過重労働</li> <li>・連作障害の発生</li> <li>・適品種の選定による適期移植への対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機械化・予冷库導入による労力、労働時間を分散・軽減する。</li> <li>・大型トラクターの導入による作業の効率化、裏作、遊休農地対策等を行う。また、畜産農家との耕畜連携により、品質向上および防ぐ。</li> <li>・ハウス設置による育苗</li> </ul>
芝	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相次ぐ離農予定の中での生産量確保</li> <li>・西洋芝混入の恐れ</li> <li>・出荷時の労働力不足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担い手のグループ化</li> <li>・機械導入での作業時間短縮</li> <li>・日本芝産地のアピール</li> <li>・農作業支援体制の整備</li> </ul>

### ～販売拡大、担い手育成、農地保全～

他産業との連携により、地域や手法を選択しながらアプローチすることで琴浦ファンを増やし、琴浦製品の更なる販売拡大を目指します。

また、担い手が年々高齢化していることから、新規就農者や農業後継者など、若い世代の農業従事者の確保が急務です。中でも、農業技術と農地を後世に引き継ぐことを狙いとして、独身農業者の出会いの場を作る取り組みを行います。

生産振興とそれを補完する雇用や消費拡大、担い手や若手就農者の支援などにより、経営耕地面積の維持、荒廃農地の拡大防止を図ります。

## V. 具体的な取組

### 1. 核となる品目の生産振興に関する緊急課題への対応

#### (1) ミニトマト

#### 選果機・循環扇導入、井戸導入により品質向上と生産量拡大の取組

機械導入、施設整備等により、品質向上と生産量拡大に取り組みます。

#### 【選果機の導入】

新たな選果機の導入によりクレーム発生を防止するとともに、形状と重量による選別を行うことで外観の揃った出荷品を安定的に供給することができます。市場の要求にすばやく対応することで、ミニトマト産地としての信頼を高め、さらなる販売拡大を目指します。

また、選果機にパック詰め機能を付加することで選果作業にかかる人員を削減し、規模拡大による生産量の増にも対応します。

#### 選果機導入前後の効果比較

	現行	導入後
選別方式	重量	重量及び形状
処理能力（8時間）	約5t	8t
選果時の人員配置	18人	17人
パック詰め	全て手作業による調整を要する	一部を自動化することで、手作業が激減
トレーサビリティ	なし	パック単位で管理
市場要望	形状が揃わない	形状が均一化

#### 【循環扇の導入】

循環扇の導入により、ハウス内の温度や湿度を適切に管理することで、病虫害や生理障害の発生を予防し、品質向上と生産量拡大を図ります。加えて、近年増加傾向にあるハウス作業中の熱中症も予防します。

#### 【井戸の導入】

産地は町内でも下流域に多いことから、気象による影響が大きいことはもちろんですが、その他作物等で使用した残留農薬等の懸念があります。井戸を設置し、安定的で安全な水を確保することで、品質の向上、

生産量の増加を目指します。

#### ハウスリースの取り組み

こうした生産量拡大の取り組みによって実現可能となる、担い手の規模拡大の意向を後押しするために、ハウスリース事業を実施します。これは農家が確保した農地に生産部がハウスを建設し貸し出すもので、規模拡大に伴う初期投資の負担を減らします。

#### 農作業支援体制づくりの取組

本プランの取り組みにより、担い手の規模拡大が可能となりますが、このことは一方で必然的に労働力不足という大きな課題を生み出します。また、現在でも一般的に農繁期には一斉に労働力が不足しますが、作業受委託に関する具体的なシステムがないため、個人的なつながりに頼っているのが現状です。

このため、Iターン者をはじめとする個人的なつながりが少ない生産者は、委託ができずに長時間労働を余儀なくされたり、適期作業ができなかったりという弊害も出ています。

作業受託の受け皿として、琴浦町シルバー人材センターに農作業部門を構築することで、労働力不足を補完します。ミニトマト収穫作業の取り組みを皮切りに、順次、他の作業へと広げていくこととしています。

公的なシステム確立により、生産者は誰もが利用できることとなる一方で、受託側としては高齢者の生きがいつくり、雇用の場としても充実強化を図ることができます。

また、JAや普及所などの協力により、登録者に対する農作業に係る研修等を実施することにより、作業受託者は自信を持って作業に臨むことができ、また生産者は安心して利用することができるようになります。

福祉施設などとの農福連携機能の充実により、農家の要望と作業所が対応できる作業等について、きめ細かな対応とその仕組みのPRを行うとともに、平成25年度開校の高等特別支援学校等による農業体験の受け入れで、新たな雇用の場への道を広げます。

あわせて、生産部として新規就農者の研修時等、積極的に受入れを行っていきます。また、琴浦町では、新規就農者への住まいの斡旋、各種助成事業の照会等を行います。

これらの取組により、新規就農者が地域に根付き、就農しやすい環境づくり、地域づくりに貢献します。

## (2) ブロッコリー

### 機械導入による作業負担軽減及び品質管理の取り組み

#### 【乗用管理機の導入】

現行は歩行式の管理機を使用しているため、1 ha の管理のためには約 1.4 km もの距離を歩行することとなり、長時間にわたるうえ、負担の大きい作業となっています。

乗用管理機を導入することで、下記比較表のとおり作業時間の半減と作業負担の軽減を図ることができるため、長時間過重労働による健康被害の解消が可能となり、さらなる規模拡大や生産性の向上を図ることが可能となります。

#### 乗用管理機導入前後の作業負担比較

	現 行	導入後	
		(H25 年度)	(H28・H29 年度)
1ha あたり歩行距離	1.4 km	0 km	0 km
1ha あたり処理時間	10 時間	5 時間	4 時間

#### 作付面積増反計画

実施年度	H25 年	H26 年	H27 年	H28 年	H29 年
作付面積	(80.9)	(88.4)	(95.6)	(106.6)	(117.9)
	81.0ha	89.3ha	103.5ha	119.3ha	125.3ha

#### 【移植機の導入】

移植機を導入することにより、年々拡大する市場のニーズに対応できるだけの面積の拡大及び生産量の確保を図ります。

#### 【予冷庫の導入】

予冷庫を導入することにより、前日収穫が可能となり、生産拡大に伴う深夜の収穫作業労力の軽減、品質管理の向上を図ります。

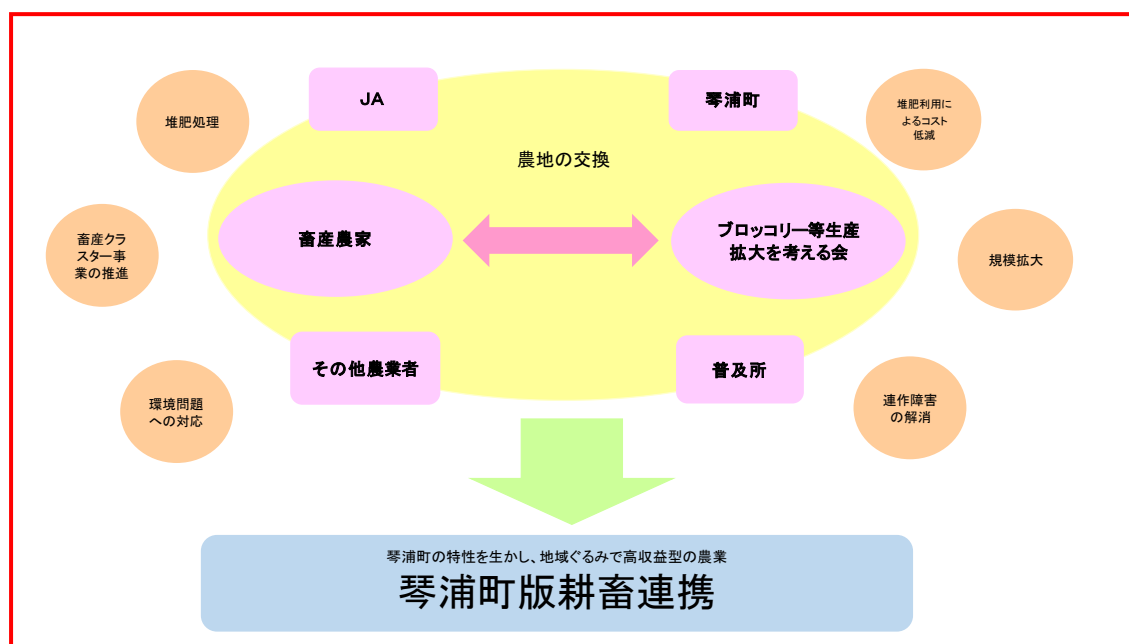
#### 【大型トラクターの導入】

大型トラクターを導入し、畜産業が盛んな琴浦町の特性を活かして飼料用とうもろこしを栽培する畜産農家と連携し、飼料用とうもろこし跡圃場でブロッコリー栽培を行います。連作障害の解消を図るとともに、排水の良い畑地での栽培により、品質向上を目指します。

また、荒廃農地や不作付地の管理に大型のトラクターを活用し、農地の管理を行い、遊休農地の解消に努めます。ブロッコリー等生産拡大を

考える会での使用に留まらず、地域の声に積極的に応えていきます。

### 耕畜連携事業イメージ図



#### 【育苗ハウスの導入】

産地維持及び向上のためには、常に品質向上対策に取り組む必要があります。特に品種については、各種苗会社が毎年優良品種を開発しております。その中から本町に適合した品種を選定し導入することで、品質向上及び産地の維持向上を図ります。そのため、試験用品種の育苗に使用する育苗ハウスを導入します。

#### (3) 芝

##### 組織化による生産量確保と日本芝産地PRの取組

生産用機械の組織での導入で、経費を抑えながら作業時間の短縮を図ります。あわせて同組織の取り組みとして、地域での芝生産の状況、離農の予定などの情報収集を行うことで、離農家分の生産量をスムーズに吸収します。

また、機械の性能向上による効率化で、作業受託も可能となり、担い手のさらなる収入増を目指します。

##### 機械導入前後の1日当たり作業可能面積の比較

	現 行	導入後
刈込作業	2. 8 ha	7. 5 ha
集草作業	4. 5 ha	5. 4 ha

課題となっている芝カスの処理に関しては、住宅地域など一定のエ

リアでは野焼きに代わる処理について検討、モデル的な取り組みなどにより、生産者と地域住民が共に気持ちよく暮らせる地域づくりに努めます。

平成 25 年度に新設予定のこども園を、鳥取県芝登祥地を改めてアピールするためのシンボルとするため、鳥取県開発の新品種グリーンバード J により芝生化に取り組みます。

新品種による芝生化の施工例として視察受入れを含めて広く PR する場とする一方で、日本芝の品質保持について地域住民の理解と協力を得るための呼び水とします。

これらの取り組みで、農地の継続利用を推進し遊休農地の拡大を防止するとともに、鳥取県芝登祥地としての威信を後世につなげます。

## 2. 人と農地に関する緊急課題への対応

琴浦町農業を次の世代に引き継いでいくためには、基本となる人と農地の問題を一体的に解決していくことが必要です。このためには、各集落等において地域の農地や農業をどうしていくのかという話し合いを行う中で、集落が抱える問題を共有することが重要です。その問題を解決するための「人・農地プラン」を順次作成していきます。

### (1)若い農業者の確保と支援で琴浦町農業の継続を支える取組

担い手の規模拡大支援などを更に強化して行うこととしていますが、担い手農家が年々高齢化していることから、新規就農者や農業後継者など、若い世代の農業従事者の確保が急務です。

特に、主要品目については機械・施設等を整備することで、新規就農者の積極的な受入れや農業後継者が営農しやすい環境づくり、地域づくりに貢献します。

また、琴浦町の農業を支える農業技術と農地を後世に引き継ぐために、独身農業者を対象に出会いと交流の場を供給する取り組みを行います。

このことにより、現在の担い手農家が行う家族的農業経営を次の世代、さらに次の世代へと引き継いでいくことで、未来をひらく琴浦町農業の振興と活性化を図ります。

### (その他事業での取組)

- ・担い手への農地の集積を推進することで規模拡大を支援します。
- ・関係機関の協力により、農業研修生の受入れを推進します。

- ・新規就農者・**農業後継者**に対する技術指導や各種研修に対する支援を積極的に行います。
- ・J A、普及所などの協力で、生産や経営に関する指導を行います。
- ・各種制度により担い手や新規就農者の機械、施設導入を支援します。
- ・担い手と若手農業者との交流の場を作ります。
- ・関係機関の連携により、新たな担い手の掘り起こしを行います。
- ・農業研修生や新規就農者の定住促進のため、専用の町営住宅の斡旋や、空き家等の情報収集を行います。
- ・お試し住宅を活用したI J U定住促進で、新規就農者の増を図ります。

## (2) 農遊休農地拡大防止の取組

農業委員による農地パトロールなどにより、町内の遊休農地の的確な把握を行うとともに、**主要品目の面積拡大**、担い手への集積のほか、企業による農業参入の支援により、遊休農地利用を推進します。

あわせて荒廃農地再生事業を積極的に推進することで、担い手等の規模拡大と農地の有効活用を図り、鳥取大学との連携による農地集積システムを農地の面的集積に活用します。

また、高齢化により重量作物（西瓜など）の栽培が困難となる生産者が予想される中、ミニトマトなどの軽量作物や「ぼろたん（栗）」をはじめとする新規作物の導入などを推進するなど、農家の形態にあった作物転換などにより営農継続を進める取り組みを行います。

## 施設の有効活用のための取組

農地のほか、離農により使用していないハウスや農業用機械などの情報収集を行い、利用促進を進めます。

また、ハウスの補強を実施することで、長寿命化を図ります。

## 3. 販売力の低下に関する緊急課題への対応

### (1) 他分野との連携で集中的なPRの取組

各分野での取り組みが認知度アップに結びついていない現状を踏まえて、農業のみならず、商業、観光業など町内各関係組織との連携により、琴浦産品の知名度を高めることで消費拡大を目指します。

農産物をはじめ、海産物や加工品など、琴浦町の持つ魅力を一堂に集めた物産フェアを県内外で実施することにより、安心・安全でおいしい琴浦産品のファンを広げます。



また、交流先の大坂方面をターゲットとした取り組みとして、物産フェアの開催のほか、町内での農作業体験等を通じた地元農家との交流事業を行うことで、琴浦町をより身近に感じてもらい、琴浦産品の消費者を育成します。この取り組みは将来のIターン者を呼び寄せるなど、新規就農者の確保にも期待できます。

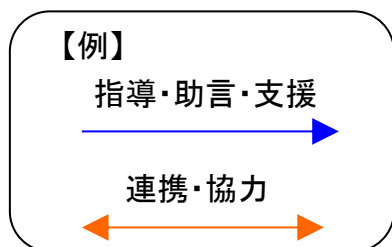
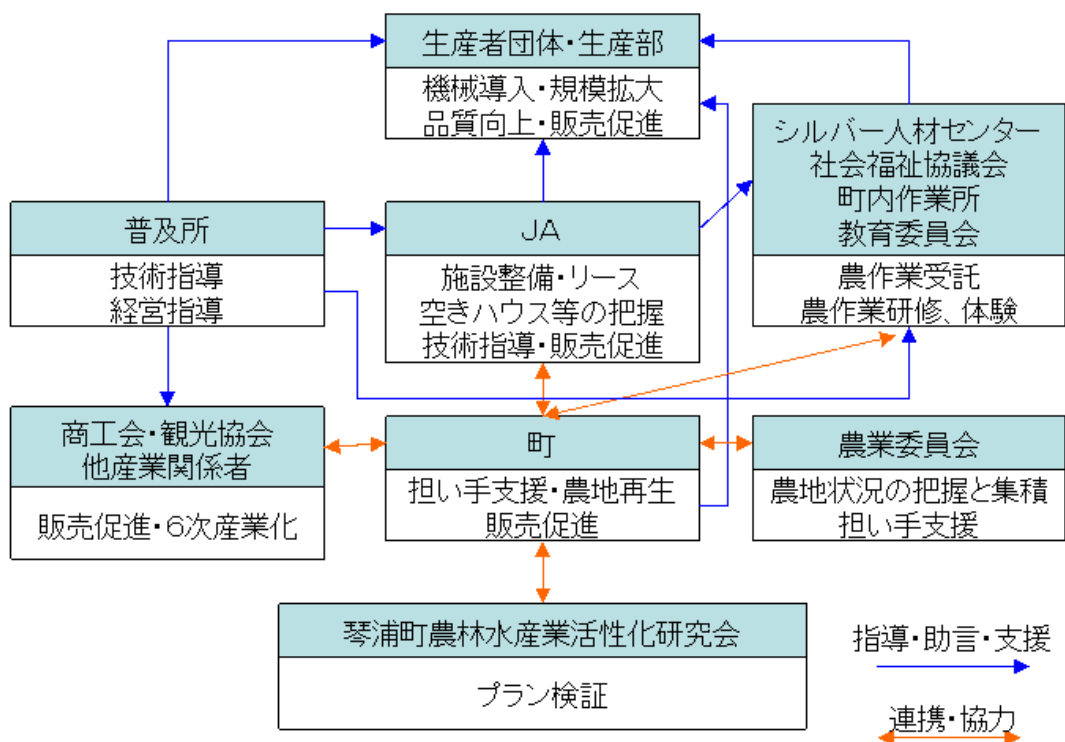
#### **(その他事業での取組)**

- グルメストリートなど町内事業所との連携や、学校給食などでの利用拡大を進めることで、地産地消のさらなる拡大に向けた取り組みを行います。
- 町内の児童、生徒を対象に農作業体験学習を実施し、農業への理解と安心安全な食への意識高揚を図ります。
- 農畜産物の加工に向けた企業誘致活動を行います。

## VI. プランの実施体制と検証

本プランを実施するに当たっては、生産者をはじめJA、県や町といった関係機関が協力、連携しながら取り組みます。

また、琴浦町農林水産業活性化研究会によって、個別の緊急課題に対する効果とあわせて、琴浦町農業の課題に対する効果に関する検証を行います。



実施体制一覧

事業内容	実施主体	関係機関
核となる品目の生産振興に関する緊急課題への対応		
ミニトマト品質向上・生産規模拡大 ミニトマトハウスリースの取組	JA鳥取中央琴浦(旧赤碕)ミニトマト生産部	JA・普及所・生産者
農作業支援体制づくりの取組	琴浦町シルバー人材センター・琴の浦高等特別支援学校	JA・普及所
ブロッコリー機械導入による作業負担軽減および品質管理	琴浦町ブロッコリー等生産拡大を考える会	JA・普及所、畜産農家会
芝生産組織化による生産量確保	琴浦町芝協議会	普及所
日本芝産地PRの取組	琴浦町	芝協議会・こども園
人と農地に関する緊急課題への対応		
後継者育成支援	琴浦町	農業委員会・JA・普及所
遊休農地拡大防止の取組	琴浦町	農業委員会・JA・普及所
販売力の低下に関する緊急課題への対応		
PR資材作成	琴浦町	JA・観光協会
物産フェア	琴浦町	JA・商工会・観光協会 関西事務所
都市農村交流	琴浦町	JA・集落営農組織 関西事務所
プラン検証	琴浦町	農林水産業活性化研究会

## Ⅶ. 支援事業の内容

区分	事業内容	事業費(千円)					実施主体
		H25	H26	H27	H28	H29	
整備事業	ミニトマトハウスリース ((8,528 m <sup>2</sup> ) (4,398 m <sup>2</sup> ))	7,994	(12,890) 4,250	(19,937) 0	(3,507) 7,713	(21,484) 15,426	JA 鳥取中央 琴浦 (旧赤 碕) ミニト マト生産部
	ミニトマト削井工事 (9カ所)	0	0	0	15,042	7,521	
	ミニトマト循環扇の導入 (157台)	0	0	0	8,964	0	
	ブロッコリー乗用管理機 共同導入((7台)) (11台)	7,462	0	0	(0) 5,855	(0) 17,565	琴浦町ブロッコリー等 生産拡大を 考える会
	ブロッコリー移植機導入 (21台)	7,000	0	(14,190) 10,153	0	3,870	
	ブロッコリー予冷库導入 ((6台)) (10台)	0	8,345	0	(0) 10,309	(1,420) 0	
	ブロッコリー育苗ハウス (3棟)	0	9,448	0	0	0	
	ブロッコリー大型トラク ターの導入 (2台)	0	0	0	12,270	0	
	芝生産機械共同導入 (7台)	13,333	0	0	0	0	琴浦町芝協 議会
推進事業	琴浦産品販売拡大						琴浦町・ JA 鳥取中央 東伯スイカ 生産部
	PR資材作成	2,044	2,400	1,100	75	75	
	物産フェア	1,467	3,387	2,401	2,401	2,401	
	都市農村交流	534	620	620	620	620	
	農作業支援体制整備	187	100	100	100	100	琴浦町シルバー 人材センター
	後継者育成支援	472	600	600	600	600	琴浦町
	芝PR	645	0	0	0	0	琴浦町
	プラン検証	2	56	56	56	56	琴浦町
事業費計		41,140	29,206	(39,004) 15,030	(7,359) 64,005	(30,626) 48,234	(147,335) 197,615